

ぱすてる

男の子と女の子の今と昔 そして未来へ
～先生方から見た男女共生社会～



蓮田市男女共生情報誌

編集委員／菅野由紀子 酒井めぐみ 小森豊政 高沢秀樹
表紙挿絵／酒井ちよ

発行／蓮田市役所総務部庶務課 〒349-0193 蓮田市大字黒浜 2799-1

☎048-768-3111 内線 296

第17号
2016.1

テーマにした内容

『教育現場に見る男女共生』



〇〇さん

です。これも男女平等のひとつか?と思います。

それでは、幼稚園、小学校、中学校、高校ではどうなのだろうか?とても気になり、このテーマに取り組みました。

Aさんは小学校に入った我が子の授業参観に初めて行きました。Aさんは学校を卒業して以来、学校に行く機会がなかったので、わくわくしながら子どもの授業参観に行きました。

授業が始まり、すぐに「えっ!」と思うことがありました。それは、先生の子どもたちの名前の呼び方が、皆「〇〇さん」になっていたことです。不思議に思い上級生のお母さんに聞いても「〇〇さん」だよと言われたそう



ご協力いただいた先生方とばすてる第17号編集委員

学校での呼び名について

まずは、今回のテーマ【男女平等について(学校生活の今と昔)】になるきっかけともなった、学校での児童の呼び名について各世代ごとにみてみましょう!



幼稚園 杉崎先生



小学校 田中先生

幼稚園



「〇〇ちゃん・くん」など、家庭調査票にそって呼んでいます。

基本的に家での呼び名と同じです。自己紹介の時も、「はくの名前は〇〇くんです。」といってしまうお子さんがいます。

小学校



「〇〇(苗字)さん」と基本的には呼んでいます。

小学校に入学したばかりの1年生は苗字で呼んでも、児童が振り向かないことがあるの

で自分のフルネームを知らないまま就学している可能性も…。授業中は〇〇さん、休み時間などは、親しみをこめて〇〇ちゃんと呼ぶ時もあります。先生に対して児童が報告するときも、「〇〇くんが～と言っていました。」ではなく「〇〇さんが〇〇と言っていました。」に直させます。男児に「〇〇さん」で呼ぶと、「はくは男です。」と言われてしまうことがあります。その場合には、男児・女児に関係なく、「〇〇さんで呼びますと伝えていきます。」(10年くらい前からだと思います。)

中学校



「〇〇(苗字)さん・くん」と基本的には呼んでいます。

子ども同士では〇〇さんと呼び合っているようです。必要に応じて「さん・くん」をつけずに呼ぶ場合もあります。児童名簿は男女が混ざっています。男女混合や男女別の活動があるため、現場では、やりづらさを感じることもあります。

高校



とくに規定はなく、教員によって違います。

体育の授業は「さん・くん」をつけずに呼ぶなど、男女にわかれての活動が多いため、年齢と場面によって違います。卒業式などは、男女混合の名簿で入場し、名前を呼んで席にもどるときはパートの異なる歌があるので、男女別の名簿順に座るなど、やりにくいこともあります。

海外学校

基本的には男女を分けず、男女を記入する欄もないようです。ファーストネームのみで呼び、叱るときはフルネームです。

●まとめ

幼稚園児から小学生になると、〇〇(苗字)さんに呼び名が急に変わるので、親や児童たちも初めは戸惑いがあるようです。学校では、あだ名よりも、〇〇さんで呼ぶことで、学校が落ち着いた例もあるそうです。

わざわざ意識しなくても、先生も、子どもたちも、目の前にいる人との人間関係でT.P.Oによって使い分けができるようになることが良いと思いました。



中学校 下平先生



小学校 茂見先生



男女の違い

今と昔

男女の違いで今と昔、何か変わったことはありますか？

中：昭和の頃はとても元気がある子が多かったですね。男の子は特に。

中：今は全体的に、女の子の方が強かったりしますよね。

小：そう。女の子が強い方が何となくクラスにまとまりがある傾向ですよ。小学校の時は。

高：高校もそうですね。文化祭なんかは女の子が仕切りますよ。

幼：幼稚園では年長くらいになると、女の子が男の子のお世話してあげたりしています。

高：女子が言葉使いや態度が、あまりにも悪いと、「女子力低いよ」って言う時ありますよ。たぶん世の中全体がそうなのかなと思います。

例えば おえかき、クラブ活動選び、服などで男女の違いはありますか？

幼：好きな色は、男の子が青、女の子はピンクが多いです。なりたい職業は、女の子がお花屋さん、ケーキ屋さん、男の子は消防士、警察官が多

いです。最初に職業の写真を見せるんですが、それが例えば男性の制服姿だと、男の人の仕事のイメージになっているようです。

小：クラブ選びは、個人の嗜好ですね。男子がバトン部、料理部に入る場合も。それでも全体的には男女の偏りまだまだありますよ。ランドセルの色は女の子の方が色の選択幅が広がってますね。昔みたいに、赤、黒の時代じゃないんですね。

中学生になると進路決めがありますね。昔と違うと感じる所はありますか？

中：基本的にはこういう職業に就きたいから、この進路を選ぶというのが本来の筋です。生徒も親御さんもそのようなことを考える時間の余裕がないように思える時があります。男女の差はないです。幼稚園の時の様に具体的な職業が決まっている子は少ないように思えます。

小：だんだん成長するにしたがって沢山の情報を知ってしまったため、かえって選べなくなっているのかもしれないですね。10年後、今ある職業

が保証されるとは限らないですからね。でも、どんどん新しい職業が生まれているのも事実ですよ。

中：そのためにも今出来る事を一生懸命やって、その中から何かを見つけてほしいですね。

高：早い段階からのキャリア教育も必要だと思います。仕事自体も、この仕事は男、この仕事は女というような求人の方なので、その意味での男女平等は、日本はまだまだだと感じます。

●まとめ

そもそも男女平等と言う言葉自体女性を下に見てたところから始まっているように思います。昔、男尊女卑だったことからです。

最近では多様な性もできてきて、表に出さないだけで、それに悩む子もいるそうです。みんなが共生できる社会は、お互い出来ることはやり合いしようということだと思います。それには、感謝の気持ちも忘れない様にしたいです。性別によってこうあるべきという感覚がなくなって、お互いを認め協力していこうとする教育、家庭のあり方を考えていきたいです。

子どもたちへの希望



幼稚園 大谷先生



中学校 橋本先生

✿ 子ども達は世の中を支えていく人材。自分が世の中の為に何が出来るかを考え続けていく。そういう人がたくさんいる社会になってほしい。そこに男女は関係ない。自分の得意な事をどんどん伸ばして行ってほしい。

✿ 男性と女性、両方は兼ね備えていない。みんな同じじゃ面白くないだから男らしさ、女らしさを意識出来る人になってほしい。男性は女らしさに、女性は男らしさに魅力を感じ、あこがれるというような。

✿ 男女関係なく人に気を配れる大人に育ってほしい。そのために教師も声をかけていきたいです。

✿ 20年後には男女平等という言葉がなくなっているかな？あたりまえにさまざまな職業に女性が入っていて、社会のトップになって。子どもたちが大きくなって、そういう女性がたくさんでくると思う。そうになったらまた日本の社会が変わると思う。例えば、産後復帰しやすい環境をつくる事も男女共生に必要です。



高校 三森先生

✿ 昔と比べると、男女の距離がすごく近くなってきていると感じます。これからもお互いを認めあう関係を深めてほしいと思います。

✿ 最近のご家庭では仕事を持つてるお母さんが多くなりました。お父さんが協力してお弁当を作ってる家庭もあるようです。母親だけが家事をするというのはなかなか難しくなっていますね。お父さん、お母さんが協力し合う家庭が増えたらいいと思います。



●まとめ

子どもたちへの希望を先生方が熱心に語る姿が印象的でした。現代の教育を受けた子どもたちは将来あらゆる選択肢の中で性別を気にする事なく、自分の出来る事で能力を発揮していきます。たくさんの人との出違い、さまざまな経験を通じて自分がこれだと思える仕事、生き方を見つけてほしいですね。それを見守る私たち大人も心がける事がたくさんあると思います。家庭の中で、父親、母親の役割をやり、お互い助け合うことで、子どもにこれが当たり前なんだよと、行動で示していきたいです。

保護者へのメッセージ



高校 木村先生

✿ 現代の子どもたちは、「男女別」という環境で教育を受けていないので、いわゆる男らしさ、女らしさとは、自分の得意なことをやるということだと思います。言葉で「男女平等」を教えるのではなく、家庭でも普段から、お父さんが家事などの手伝いしている姿をみていれば、子どもも自然とそのように育つと思います。なんでも平等といっていると、感謝の気持ちがなくなってしまうがちです。(ですが、民間企業はまだまだ23時くらいまで働いているお父さんも多いので、家事を手伝う時間もない現実もあります。)



✿ 家での手伝いをたくさんさせてほしいです。現在は家庭科では男だから下手、女だからうまいということがなくなってきているように感じます。家で手伝っている子どもはうまくできます。(余談ですが…夏休みのキャンプで、玉ねぎを茶色の皮の上から洗っている子どもがいたり、文化祭の手伝いなどで、段ボールをひもでしばれない、やりかたが全くわからない生徒がいて驚いた経験があります。)



✿ 三者面談などでも、生徒に質問を投げかけているのに、自分の意見が言えない子が多く、すべて親が答えてしまって、肝心の本人の意見が聞けないこともあります。全部、親が先にかけてしまうのではなく、勇気を持って失敗の経験をさせてあげてほしいです。そして、人に喜ばれる、周りのひとに気を配れる人に育ってほしいです。



●まとめ

保護者の立場としては、わが子を思うばかりに、手を貸しすぎてしまうこともあるかと思います。子どもたちの自主性をもっと大切にしていきたいものです。将来的に子どもたちは、世の中を支えていく人材です。大人である私たちが、良い見本となっていけたらいいですね。



●今回の取組から

小学校では、男女平等の教育が行われていて、そのひとつとして名前の呼び方を男女問わずに「○○さん」としているそうです。

しかし、中学校、高校と進むにつれ、一人の「人」としての考え方にに基づき、また、教育的判断からその時々で呼び方も考えられているそうです。逆に、幼稚園では、初めての集団生活に慣れてもらうことを優先し、家庭での呼び方で呼ぶことを心掛けています。

今回、子ども達の名前の呼び方に注目して取り組んだ「教育現場に見る男女共生」は、子ども達の将来への希望や保護者へのメッセージまで広がり、様々な立場の先生方からいろいろなお話を伺う事が出来て、とても新鮮な思いと驚きを感じながら楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

蓮田市の先生方は、子ども達の将来を考え、年齢に応じた男女平等、男女共生の教育を実践されていることを実感しました。このような先生がたくさんいらっしゃることを心強く感じました。



ばすてる編集委員

今回のような世代や職場が違う先生方の話を伺うのは初めてでした。普段、どういうことを心がけているかを伺うことができました。

男女共生は、男と女をごっちゃにするという事ではなく、特性が違うからこそ、それを知って補い合う事を心がけようという事なんですね。まずは私たち大人が日頃から、感謝の気持ちを忘れず人と接していきたいですね。

(酒井)

今回、ばすてる編集委員のお仲間に加えていただきました高沢と申します。私が教育関係の仕事をしていることもあり、今回のテーマはとても興味深く、私自身もワクワクしながら参加させていただきました。男女共生とは大変奥深いテーマであり、本質をとらえることが難しいように感じています。しかし、この機会に皆様と共に色々な視点から取り組んでいきたいと思います。よろしくお願いたします。

(高沢)

ばすてる編集委員2年目になります小森と申します。昨年声を掛けて頂き編集委員になりました。編集委員で何もできなく皆様にはご迷惑をかけていますが自分に得るものはすごいものがありました。男女共生の意味を色々勉強させて頂いております。

これからも不思議に思うことや皆様聞いて感じることをテーマにして、皆様に関心を持っていただける「ばすてる」にしたいと思います。

(小森)

今回の取材の中で、「男性、女性ではなく、自分はどう社会に貢献できるのか、誰かのために自分は何ができるのか、一生考え続けながら、生きていってほしい」という先生方のお話がありました。親として、私も自分自身を見直す良いチャンスをいただきました。言葉だけではなく、大人として良い行動を心がけたいと思いました。また、子どもたちはステキな志をもった先生方と、学校生活を送りながら、将来の目的を見つけ、自分に自信の持てる人に育ってほしいです。

(菅野)

ご意見をお寄せください

「ばすてる」では、今後載せてもらいたい内容、今回の内容に対するご意見・ご感想、男女共同参画全般に関するご意見などをお待ちしています。また、編集委員も募集しています。興味関心をお持ちの方、ぜひ参加してください。



今回の「ばすてる」の発行にあたり、お忙しい中ご協力をいただきました。蓮田市教育委員会、蓮田松韻高等学校、黒浜西中学校、蓮田中央小学校、蓮田南小学校、大山幼稚園の皆様がこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

